



DNW-22009 の概要

課題名 : 多剤耐性アシネトバクターの薬剤排出ポンプの創薬標的としての
検証

主任研究者 (Principal Investigator) :
西野 邦彦 (国立大学法人大阪大学産業科学研究所)

ステージ: 標的検証前期

【標的疾患】

多剤耐性アシネトバクター感染症

【創薬標的】

多剤耐性アシネトバクターの排出ポンプ阻害

【創薬コンセプト】

アシネトバクターの多剤排出ポンプを阻害することにより、既存抗菌薬を菌内に滞留させ、抗菌活性を発現させる。

【ターゲットプロダクトプロファイル】

広域β-ラクタム剤、アミノ配糖体、フルオロキノロン等に耐性を示すアシネトバクター感染症患者を対象として、上記薬剤との併用によって感染症治療効果を示す経口剤又は注射剤

【モダリティの設定】

低分子化合物

【創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス】

以下のことがPIらにより明らかにされている。

- 1) ポストゲノム解析から数多くの多剤排出ポンプを同定し、各多剤排出ポンプ発現による細菌の薬剤耐性パターンを明らかにしてきた。
- 2) 細菌の排出ポンプ遺伝子をクローニングしたプラスミドを多数保有している。

【支援ステージにおける目標】

多剤耐性アシネトバクターにおいて、抗菌薬の耐性に不可欠な排出ポンプを特定する。

【関連特許】

無し

本資料は、創薬総合支援事業（創薬ブースター）による支援の終了時の情報をもとに作成しています。